2011年6月1日発行　第28号／富山国際学園

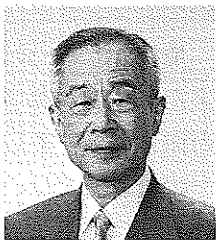
学園報

No.28

富山国際学園 URL http://www.tii.ac.jp/
富山国際大学 URL http://www.tuins.ac.jp/
富山短期大学 URL http://www.toyama-c.ac.jp/
富山国際大学付属高等学校 URL http://www.tuins-h.ed.jp/
富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL http://www.fsinet.or.jp/~midorino/

●学校法人富山国際学園
〒930-0193 富山市願海寺水口444
TEL/076-436-5139
FAX/076-436-5444

日本は厳しい再出発。"Our Life, Our Future."



理事長
金岡　祐一

（1）**3.11**　①大震災、大津波、原発大事故。被災の方々に、学園をあげて鎮魂の祈りを捧げ、衷心よりお見舞いの意を表します。すでに個人的実行も多々おありでしょうが、あらためて「学園としての義援金」のとりまとめをお願いしたところ、百一万円に達し、５月２日、押田常務理事が日本赤十字社 富山県支部へ寄託されました。皆様の御篤志と御協力にあつく御礼申し上げます。②原発に関しては私個人は深刻に心配。混迷の初動対応（政府の無策と東電の無能）以来、常に最悪の場合も想定してきました。菅政権の無力な危機管理は国の内外から不信の烙印。天災と人災。今後の長期にわたる国民の苦難と負担は想像を越えます。③20世紀半ばに敗戦の極度の貧困を体験した私の世代からみれば、再び「国難」に直面したとの厳しい認識。今後の底知れぬ出費と産業経済のブレーキ、そして復興の難題を思えば、一時「経済大国」に安住した我々国民は、あらためて「どん底からの再出発」ぐらいを覚悟すべきでしょう。④今後　(a) 短期：原発抑制（但し汚染と廃炉は長期！）と被災者の救済。(b) 中期：被災地の（新ビジョンに立つ）復興。(c) 長期：「災後」の国の未来を見据え、国際的視野に立つ日本の大転換。「21～22世紀の日本国土と制度の大改造ビジョン、創造的復興」。(d) 国民は不屈の知力とエネルギーをもつはずだが、日本ははたしてビジョンを実行できる「政治」を産み出せるのか？

（2）**富山国際大学**は（a）一連の「創立20周年記念行事」を実施。とくに東黒牧キャンパスでの記念式典と国際交流シンポジウムは、石井知事や理事から期待の祝辞、森市長の記念講演等、盛会。シンポジウムは、韓国、ロシア、中国の学長レベルをそろえた基調報告、パネルディスカッションも有意義でした。エクステンションプログラムも前進。(b) 昨年10月、日本高等教育評価機構の評価を受けた結果、この３月、晴れて「大学評価基準を満たしている」との評定を受けました（平成29年３月まで有効）。「無条件」ですべての基準に合格し、教育研究組織や教育課程などでは「優れた点」の指摘も。中島学長のリーダーシップによる自己点検の努力が結実したものと、感謝と一安心。今後は全力で「経営改善計画」に取組もう。(c) 文科省「入学から卒業までの体系的な就業力育成教育」も一段と前進を。(d) 社会の激変に対応し大学も組織改革を断行せざるをえず、残念ながら国際教養学部と地域学部はこの３月で基本的にその歴史を終えました。しかしこの両学部のSpiritとDNAは現代社会学部に脈々と受け継がれ、卒業生諸君一人一人の胸の中に、建学の精神が生き続けていると信じます。(e) 子ども育成学部は認知度向上の努力が効き始め、初めて入学定員を確保し、明るい第一歩を刻みました。３年生は意欲的な教員資格取得へ向け、小学校実習の準備中。

（3）**富山短期大学**は（a）平成25年に50周年を迎えます。呉羽キャンパスでは、子ども育成学部に加え富山国際大付属高校が第１期・新館を完成。ようやく短大の改築も基本設計に入りました。幼稚園を含めて４校同居で「賑やか」ですが、衆知を集め計画を。不景気で全国の短大就職率63%という中、わが短大は99%以上。就職支援センターと全教職員の格別の「進路支援」の尽力のたまものです。短大での２年のコンパクトな教育プログラムの中、ボランティア活動は容易ではないが「ボランティア賞」を設定し奨励。(b) 日本ビジネス実務学会・中部ブロック研究会では、実務教育に注力している経営情報学科の学生２名が優秀賞を得ました。９月、富山で「平成23年度全国保育士養成セミナー・研究大会」が小芝学科長が実行委員長で開催されます。本学・幼児教育学科の「全国レベルの活動」の象徴であり、ぜひ成功を。食物栄養学科は依然志願者も多く、専攻科と共に食と健康のスペシャリスト教育に奮闘中。福祉学科は開設15周年の福祉・介護啓発セミナーを開催。厚労省の委託訓練、介護雇用等にも協力しています。

（4）**富山国際大付属高校**は久しぶりで定員を確保し、設備の整った新校舎で明るく勉強、意気盛ん。第２期工事も始まりました。活発な部活動の中でも、野球部が初めて県内優勝の快挙！全学園で応援しよう。

（5）**短大付属みどり野幼稚園**は幼児教育研究会で公開保育を行い、好評。子育て支援や地域との絆を強化し、42名の新入園児を迎えました。

（6）**富山国際学園福祉会にながわ保育園**は、保護者の「一日保育体験」、父親の会の発足等、一層地域に信頼される保育園をめざしています。

学園をめぐる諸環境も、問題山積。教職員の皆さん、自らを信じつつ、日々教育の使命に取組みましょう。終りに；理事長は一化学徒、今年は国連・世界化学年。"Chemistry–our life, our future."

CONTENTS

□日本は厳しい再出発。"Our Life, Our Future."
理事長　金岡 祐一 …… 1
□特集1　富山国際大学創立20周年記念式典・第5回国際交流シンポジウムを開催 …… 2～3
□特集2　富山国際大学付属高等学校新校舎竣工 …… 4～5
□平成23年度入試状況・平成22年度進路状況 …… 5
□平成23年度予算概要 …… 6～7
□学園退職者・新任者一覧 …… 7
□学園NEWS …… 8

富山国際大学創立20周年記念式典・第5回 国際交流シンポジウムを開催

平成22年11月20日（日）、東黒牧キャンパスにて、富山国際大学創立20周年記念式典ならびに第5回国際交流シンポジウムを開催しました。

地元自治体・企業の代表者など多数のご臨席を賜り、また、本学関係者や学生も参加し、約250名が晴れの節目を祝いました。

記念式典では、中島学長の式辞、金岡理事長のあいさつに続き、石井富山県知事、金岡富山第一銀行代表取締役会長、中尾インテック会長のご来賓の方々が祝辞を述べられました。

森富山市長が記念講演をされた後、「北東アジアにおける国際交流のあり方」をテーマに国際交流シンポジウムを開催し、韓国・ロシア・中国の提携大学の学長らが基調講演とパネルディスカッションを行いました。

◆創立20周年記念式典

第1部の記念式典では、中島恭一学長が創立20周年を機に、「共存・共生の精神」を大学の基本理念に据えたことを報告しました。「国際的視野に立脚しつつ、地域社会の発展に貢献できる人材育成や教育研究を推進して、地域における知の拠点・人材の拠点としての役割を果たしていきたい」と力強く決意表明しました。金岡祐一理事長は、北陸の代表的総合学園として半世紀の歴史を刻んできた富山国際学園の歩みを紹介しました。女子短大を第一世代とすると、国際大学の開学から総合学園として第二世代が始まり、現代社会学部に子ども育成学部が加わったことで第三世代がスタート。この二つの学部を、富山国際大と富山短大の力を結集した21世紀を開拓すべき切り札、車の両輪として前進していきたいと述べました。

ご来賓の石井隆一県知事、金岡純二富山第一銀行代表取締役会長、中尾哲雄インテック代表取締役会長兼CEOからは、本学園の建学の精神「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性」とそれを踏まえた基本理念に対し、高い評価をいただきました。その上で「地域社会と国際社会に貢献する人材の育成に今後とも尽力してほしい」「20周年を新しい出発点としてさらに飛躍してほしい」と期待の言葉もいただきました。

◆記念講演

第2部は、森雅志富山市長に「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」と題してご講演いただきました。ライトレールや路面電車の環状線化で県内外の自治体から注目を集める富山市の取り組みですが、原点には人口減少社会において一定の人口を維持するために魅力的な雇用をつくる、つまり企業に選ばれる都市を目指すという考えがあったそうです。家族単位で安心して暮らせるまちを考えたときに、大きな要素のひとつとなるのが車に頼らなくても暮らせるまちづくりで、市の立場からすると行政コストの削減につながるコンパクトなまちづくりが、同時に外部の人にとって魅力に思える都市づくりをしていることになった、と説明されました。

公共交通の利便性を高め、沿線に住む人を増やす。中心部の魅力を増やし、にぎわいをつくる――というのが富山市の計画です。ライトレールや路面電車の環状線化、グランドプラザ整備、「おでかけ定期」など、さまざまなアイデアを投入した結果、中心市街地ににぎわいが戻ってきていることも紹介され、興味深い内容に参加者は熱心に耳を傾けていました。

森市長からは「富山国際大学には国際交流にさらに力を入れてもらい、富山市が外国から来た人からも評価される都市となるための一翼を担ってほしい」と熱いエールが送られました。

◆第5回国際交流シンポジウム

第3部の国際交流シンポジウムは、海外の協定校から3人のゲストをお招きし、基調報告をしていただきました。

まず、大邱大学校（韓国）の洪徳律総長が「北東アジアにおける国際交流のあり方」と題して報告されました。洪総長は、これからの国際交流は国レベルだけでなく、地方自治体や企業、民間団体、個人が主体となり、信頼しあえる関係を築いていかなければならないと強調。その鍵を握るのは、それぞれの国の将来を担う若者たちであり、青年交流の推進が非常に重要だと訴えられました。

ウラジオストク経済サービス大学（ロシア）のゲンナジー・ラザレフ学長は「ロシアおよび世界における教育空間の統合と協力」と題し、お話しされました。ウラジオストクは、ロシア政府によってアジア太平洋地域における国際協力の中心地とする発展計画が策定されたほか、2012年のAPEC首脳会議の開催地となるなど、先端的サービス分野の発展が期待されています。経済サービス大学は、ツーリズム、情報、法律、保健医療など各分野の専門家養成に力を入れており、キャンパス内にトレーニングセンターとしてホテルを建設し、学生がプロの職員と一緒に実習することで大きな教育効果をあげていることが紹介されました。

大連海洋大学（中国）の郭艶玲外国語学院院長は「中日大学間交流の現状及び展望」について説明されました。1980年から始まった日中の大学間交流は、当初は留学生派遣や研究者の相互訪問が中心でしたが、共同研究、姉妹校締結といった中期協力段階を経て、現在は単位の交換を認め、共同教育プログラムを設置するまでに発展しました。本学と大連海洋大学も「2＋2」のプログラムに調印しており、今後ますますの交流発展が期待されます。

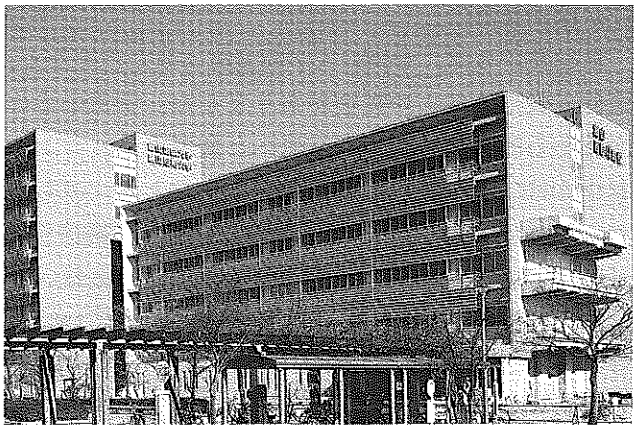
森市長も加わって行われたパネルディスカッションでは、北東アジア地域における国際交流のあり方や本学との交流について、中島学長をコーディネーターに活発な意見が交わされました。

森市長は、市民交流をベースにして相互理解を深めていくのが国際交流を深める最有力の方法だと話し、留学生から韓国語を習った自らの体験を踏まえ「今後は大学間交流が市民交流の大きな窓口になっていく。富山国際大学もさまざまな国から留学生を受け入れて『富山ファン』を増やしてほしい」と本学に期待を寄せました。本学は現在8カ国13大学・高等教育機関と提携を結んでおり、語学の授業のほかに、ロシア・韓国・中国の各国事情を学ぶ講義があり、夏休みには各国へ行って交流する異文化研修を実施しています。中島学長はこういった本学の国際交流の現状を紹介し、会場で聴講する学生に「海外の提携大学へ短期でもいいのでぜひ留学してほしい」と呼びかけました。

洪総長からは、今後の大学間交流は数だけでなく、質的成長が大切との提言がありました。学生中心の交流から教職員レベルの交流へと発展させ、シンポジウムに参加したロシア、中国の大学とも交流していきたいと話されました。ラザレフ学長は「経済サービス大と国際大の卒業生が親交を深めることは、両国関係だけでなく環日本海地域全体の関係にいい影響を与えると確信している」と強調。現在、経済サービス大学に留学している本学の学生はいませんが、「教職員交流を進めれば、学生の留学にもつながる。経済サービス大から国際大に留学している学生に『君たちが広告塔になってロシアへの留学をPRしなさい』と依頼しました」とユーモアを交えて話されました。郭院長は、留学した学生たちから国際大にはとても親切な先生がおられ、安心して勉強できると聞いており、恵まれた環境のもとで勉強できるので学生の大部分がそのまま日本の大学院に進学していると、本学への留学が成果を生んでいることを紹介されました。大連海洋大では留学生の受け入れ体制を充実させるために国際交流学院を設置されたそうで、本学とのさらなる双方向交流が期待されます。

最後に中島学長が「環日本海地域は経済発展が著しく、隣国として人的交流、文化交流を発展させていくことが必要というのは共通認識。富山国際大も『共存・共生の精神』で、世界の国々が多様性を保ちながら共存できる原理を探求するため、努力していきたい」と締めくくりました。今回お招きした大学間で新たな交流を望む声もあり、本シンポジウムが交流推進のきっかけにもなったようです。

富山国際大学付属高等学校新校舎竣工



平成22年5月に着工し、急ピッチで進めていた富山国際大学付属高校新校舎が完成し、平成23年2月22日、全校生徒は慣れ親しんできた旧校舎に別れを告げ、翌23日の授業開始に向けて机などを新教室に運び入れました。

隣接する富山国際大学・富山短期大学子ども育成棟とデザインが調和した5階建ての外観は今年に入って姿を現し、1月いっぱいで内装・設備工事もほぼ完了しました。エコを重視した設備は地元メディアにも注目され、2月12日にはKNBテレビの取材を受けました。3月5日にはPTAの新校舎見学会も行いました。

初めて新校舎に足を踏み入れた生徒たちは明るく綺麗な校舎に目を輝かせ、「設備がすごくハイテク」「きれいな教室で勉強を頑張れそう」「他の高校に通っている友達に自慢できる」などと歓声を上げていました。

校舎の完成を心待ちにしていたのは生徒だけではありません。中田校長も新聞部のインタビューに、「とても綺麗で素晴らしい校舎になりました。生徒の皆さんには、綺麗なまま大切に、ずっと永く使ってほしいと思います。いま生徒会執行部で始めている取り組みを全校生徒に広げていって、汚さないという精神を全員が持つことが大切です。」と語りかけました。

〔万全のセキュリティシステム〕

それでは、新校舎の先進設備について紹介します。まずは万全のセキュリティ設備から。

エントランスのドア11か所と西側自動ドアには、事務室や職員室から操作できる「電気錠」を採用。タイマー制御で、自動的に朝7時に解錠、夜9時に施錠されるようになっています（平日の場合）。

広い範囲を映し出す高性能防犯カメラをエントランスや廊下などに計14台設置。事務室や職員室でモニター監視され、専用ハードディスクに常時録画されています。映像は約2週間分蓄積される仕組みです。

自動火災報知設備も備え、火災報知器や感知器が作動すると、非常放送設備が連動して校内に放送（メッセージ、サイレン）が自動的に流れます。階段には火災時に自動で高所の窓が開く排煙設備も備わっています。

また、校内の電話にはIP（インターネット・プロトコル）利用の最新鋭機器が導入されているのに加え、各階の廊下にPHSアンテナが取り付けられています。これは、教員が全員持っているPHS電話機の呼び出し用で、緊急時にも即時に対応できるよう万全の危機管理対策が講じられています。

〔県内高校初・大画面で情報配信〕

続いて、先進のハイテク設備の数々を紹介します。

エントランスと職員室には65インチ、2～5階の廊下中央部に50インチの大型プラズマディスプレイを設置。電算室に置かれたサーバーから配信される様々な形式のコンテンツを自動表示できるハイテクな「情報配信システム」です。個々のディスプレイに別の情報を流すこともできます。毎日の時間割変更やバス時刻の案内はもちろん、生徒への連絡事項などいろいろな情報が表示されます。

なお、「リアルタイム放送システム」と連動し、カメラで撮影している授業のライブ映像などをこのプラズマディスプレイで公開放映することもできます。

選択教室を含む特別教室には全て、120インチの電動スクリーンと天吊りの業務用DLPプロジェクターを備え、鮮明な映像を映せます。スピーカーは天井埋め込み。機器を集中操作できる操作卓内には地デジ・BS・CS放送が受信できるブルーレイ・HDDレコーダー＆ビデオデッキ、アンプ、ワイヤレスマイク設備などがセット済みなのに加え、パソコンや外部ビデオ機器も操作卓上ですぐに接続できるようになっており、授業やプレゼン発表などで大いに活用できます。

1階の放送室には最新鋭の校内音声放送やチャイム放送設備を完備。授業開始チャイムの2分前に流れる音楽もここから放送されます。また、ハイビジョン映像を校内各教室のテレビやプロジェクターに流す「デジタルテレビ自主放送」が可能な設備も備えています。

〔エコスクール化へ前進〕

次に「エコスクール」をハード面で実現する設備を紹介します。

各階の廊下・階段・ホール・トイレ・洗面所の照

明は全てセンサー式で、人が近づくと自動的に点灯、いなくなると消灯するエコなシステムです。明るいエントランスホールなどにはLEDによる間接照明を採用し、教室などの蛍光灯も明るく長寿命なタイプを使用しています。

天井埋め込み型の冷暖房エアコンは高効率なハイブリッドタイプを採用し、事務室で集中管理されています。熱交換タイプの換気ファンも各所に取り付けられています。

トイレには全て、節水型の便器と温水洗浄付き暖房便座「ウォシュレット」を採用。「音姫」（擬音装置）内蔵で、余計な水を流さなくて済む最新タイプです。男子トイレも、センサーで自動的に水が流れます。手洗いの蛇口も全自動センサー式で、手をかざすと水が出るしくみです。手の温風乾燥装置もついています。また、3～5階の女子トイレ横には車イスのまま入れる「ハンディキャップ・トイレ」が設置されています。

3～5階の洗面所にある6つの蛇口も全てセンサータイプ。さらに、種類別のリサイクルボックス（ゴミ箱）が設置されており、鍵つきの個人ロッカーもあります。

教室は、床に天然素材のリノリウムを採用し、窓は高遮熱タイプで、外のルーバーと相まって夏の熱い日差しを和らげます。曲面黒板は線を引きやすい方眼つきで、掲示板はマグネット対応です。全教室にはLAN端子とテレビ端子が備わっており、授業で活用できる様になっています。

15人乗りのエレベーターは乗員数に応じて高速運転できる省エネタイプで、赤外線センサーが障害物を感知するとドアが閉まらないので、車イスにも対応しています。なお、エレベーター内のカメラ映像は事務室で常時モニターし録画されています。

最後に、1階廊下の大きなガラス窓から中がよく見える調理室に設置された10台のステンレス調理台には、県内高校では初のIHコンロが備わっています。60㌢径3口の最新タイプで、自動両面焼グリルもついています。下部にはビルトイン電気オーブンレンジ、上部に照明つきのレンジフードファンも設置され、時代にそくした調理実習が行えます。

高校の新校舎をぜひ見学してください。

平成23年度入試状況

大学

（平成23年4月5日現在）単位：人

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	169	165	153	105
子ども育成	80	154	151	136	82
合計	200	323	316	289	187

短大

（平成23年4月5日現在）単位：人

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	137	137	106	87
幼児教育	80	139	138	117	93
経営情報	100	146	145	141	124
福祉	70	48	47	51	43
食物栄養専攻	15	14	14	14	14
合計	345	484	481	429	361

※福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む。

高校

（平成23年4月5日現在）単位：人

コース・クラス	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	136	135	16
特進コース	1クラス	457	456	54
フロンティアコース	5クラス	613	607	177
合計	7クラス	1206	1198	247

平成22年度進路状況

（平成23年5月1日現在）単位：人

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
国際教養	35	31	28	90.3	1
地域	70	62	56	90.3	2
合計	105	93	84	90.3	3

（平成23年3月31日現在）単位：人

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	87	78	78	100.0	7
幼児教育	78	77	77	100.0	1
経営情報	117	111	110	99.1	5
福祉	55	48	48	100.0	6
合計	337	314	313	99.7	19
食物栄養専攻	17	17	17	100.0	0

（平成23年3月31日現在）単位：人

大学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	その他	入学者等	合格者	卒業生
富山国際大学	15	19	富山短期大学	18	19	専修・各種学校	34	43	163
国公立	10	12	国公立短大	1	1	就職	25		
他の私立大学	42	61	他の私立短大	11	11	その他	7		
計	67	92	計	30	31	計	66		

平成23年度新入園児童

幼稚園

（平成23年4月1日現在）単位：人

	新入園児	在園児	計	男	女
3歳児	39	0	39	23	16
4歳児	2	25	27	11	16
5歳児	1	25	26	17	9
合計	42	50	92	51	41

平成22年度卒園児童

（平成23年3月31日現在）単位：人

	男	女	合計
5歳児	15	12	27

平成23年度 予算概要

■高校校舎改築Ⅱ期工事、短大校舎改築計画実施に向けた予算化等

平成23年度の事業計画及び予算は、去る3月24日に開催された評議員会・理事会において承認されました。

今年度予算の大きな特徴は、呉羽キャンパスの老朽化した短大校舎改築計画の着手、高校校舎改築Ⅱ期工事の施行等が挙げられます。これらの施設の整備には、多額の自己資金が投資されることから、学園全体として学生生徒の安定的確保や補助金等の外部資金の積極的獲得に努め、経営基盤を強化しなければなりません。

特に、大学においては、平成20年度に設置した現代社会学部が完成年度を迎え、初めての卒業生を社会に送り出すことになります。これらの学生たちの評価が大学の評価に直結することを念頭に置いて、キャリア教育支援に傾注した予算内容となっています。また、東黒牧キャンパスの施設規模と定員規模が見合っていないことから、施設の有効活用方法についても検討しなければなりません。

いずれにしても、大学の改組再編計画や経営改善計画を着実に実行し、赤字体質からいち早く脱却することが急務となっています。

主な予算の概要は、次のとおりです。

消費収支予算において、消費収入の部では帰属収入合計が2,581百万円（対前年度当初予算比216百万円増・9.1%増）となり、これから基本金組入額を差し引いた消費収入合計が2,309百万円（同269百万円増・13.2%増）となっています。消費支出の部では、消費支出合計が2,703百万円（同89百万円減・3.2%減）となっています。この結果、消費支出超過額（いわゆる赤字額）は、393百万円（同359百万円減）となり、前年度繰越消費支出超過額2,627百万円に、平成23年度の赤字額393百万円を加えた3,020百万円が翌年度繰越消費支出超過額（累積赤字）となっています。

資金収支予算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

（単位：千円）

		平成23年度予算額	平成22年度当初予算額	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,735,481	1,674,889	60,592
	手数料収入	33,032	33,725	-693
	寄付金収入	2,005	2,005	0
	補助金収入	573,358	533,293	40,065
	資産運用収入	34,020	34,020	0
	資産売却収入	1	1	0
	事業収入	76,102	45,045	31,057
	雑収入	126,794	42,050	84,744
	借入金等収入	0	3,724	-3,724
	前受金収入	469,615	463,452	6,163
	その他の収入	430,093	1,098,266	-668,173
	資金収入調整勘定	-488,452	-484,041	-4,411
	前年度繰越支払資金	1,101,000	749,000	352,000
	収入の部合計	4,093,049	4,195,429	-102,380
支出の部	人件費支出	1,720,499	1,666,348	54,151
	教育研究経費支出	536,362	534,298	2,064
	管理経費支出	128,029	167,311	-39,282
	借入金等利息支出	3,114	4,429	-1,315
	借入金等返済支出	29,780	30,430	-650
	施設関係支出	448,302	876,119	-427,817
	設備関係支出	51,453	35,977	15,476
	資産運用支出	54,510	106,293	-51,783
	その他の支出	440,500	96,224	344,276
	［予備費］	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	-236,000	-438,500	202,500
	次年度繰越支払資金	901,000	1,101,000	-200,000
	支出の部合計	4,093,049	4,195,429	-102,380

消費収支予算書

平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで

（単位：千円）

		平成23年度予算額	平成22年度当初予算額	差異
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,735,481	1,674,889	60,592
	手数料	33,032	33,725	-693
	寄付金	2,708	2,708	0
	補助金	573,358	533,293	40,065
	資産運用収入	34,020	34,020	0
	資産売却差額	1	1	0
	事業収入	76,102	45,045	31,057
	雑収入	126,794	42,050	84,744
	帰属収入合計	2,581,496	2,365,731	215,765
	基本金組入額	-272,215	-325,257	53,042
	消費収入の部合計	2,309,281	2,040,474	268,807
消費支出の部	人件費	1,724,499	1,679,348	45,151
	教育研究経費	819,762	809,798	9,964
	管理経費	130,059	169,471	-39,412
	借入金等利息	3,114	4,429	-1,315
	資産処分差額	9,800	113,500	-103,700
	［予備費］	15,500	15,500	0
	消費支出の部合計	2,702,734	2,792,046	-89,312
当年度消費支出超過額		-393,453	-751,572	358,119
前年度繰越消費支出超過額		-2,626,936	-2,256,838	-370,098
翌年度繰越消費支出超過額		-3,020,389	-3,008,410	-11,979

資金収支予算において、平成23年度予算を資金の流れでみると、収入額は、学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入等に加えて、平成23年度入学生の前受金や平成22年度末の未収入金の見込額等を加えると、収入合計は4,093百万円（同102百万円減・2.4%減）となっています。

一方、支出額は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等利息支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等に、翌年度への繰越支払資金を加えて4,093百万円（同102百万円減・2.4%減）となる見込みです。

学校別消費収支予算をみると、前年度に引き続き、全ての部門で赤字予算編成となっています。特に、大学においては、改組再編計画の途中のため、赤字予算編成が続いています。経営改善計画を達成するためには、何よりも学生確保に全力を注ぎ、さらには外部資金の積極的な獲得、経費の節減などに努め、健全な財務基盤を築かなければなりません。また、短大の老朽校舎の改築計画にあたっては、呉羽キャンパスの施設の有効活用や将来構想を見据えたうえで、過大投資とならないように、慎重な計画の策定が必要です。

平成23年度部門別消費収支予算書　（単位：千円）

科目＼部門		法人	大学	短大	高校	幼稚園	総額
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	704,949	689,503	316,272	24,757	1,735,481
	手数料	0	10,012	15,550	7,430	40	33,032
	寄付金	2	2,001	3	2	700	2,708
	補助金	0	177,290	134,413	244,655	17,000	573,358
	資産運用収入	30,020	1,100	2,700	200	0	34,020
	資産売却差額	0	0	1	0	0	1
	事業収入	0	15,372	30,050	25,000	5,680	76,102
	雑収入	500	31,118	45,541	41,633	8,002	126,794
	帰属収入合計（A）	30,522	941,842	917,761	635,192	56,179	2,581,496
消費支出の部	人件費	24,128	674,290	587,826	392,866	45,389	1,724,499
	教育研究経費	0	418,678	239,792	141,640	19,652	819,762
	管理経費	17,482	48,695	46,707	16,318	857	130,059
	借入金等利息	0	1,894	670	550	0	3,114
	資産処分差額	0	4,200	2,500	3,000	100	9,800
	予備費	2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500
	消費支出合計（B）	43,610	1,152,757	882,495	557,374	66,498	2,702,734
基本金組入額	第1号基本金	0	29,207	78,143	113,348	1,507	222,205
	第2号基本金	0	0	50,000	0	0	50,000
	第3号基本金	10	0	0	0	0	10
	第4号基本金	0	0	0	0	0	0
	基本金組入額合計（C）	10	29,207	128,143	113,348	1,507	272,215
当年度消費支出超過額（D）=（A）−（B）−（C）		△13,098	△240,122	△92,877	△35,530	△11,826	△393,453
前年度繰越消費支出超過額（E）		—	—	—	—	—	△2,626,936
翌年度繰越消費支出超過額（D）+（E）		—	—	—	—	—	△3,020,389

私学を取り巻く環境は、大学全入時代を迎え、ますます厳しさを増しています。特に地方の小規模大学は、学生確保が困難な状況下にあり、財務状況も非常に厳しくなっています。これは本学園においても例外ではありません。しかし、地方にあっても地方ならではの特色を全面に打ち出し、魅力を高めて学生確保に成功している例があることも事実です。本学園が地域社会に認められ、経営基盤を盤石にするためには、本学園の使命である「地域に根ざした学園」づくりに徹し、全教職員が一丸となって取り組まなければなりません。

◆退職者一覧（平成23年3月31日付）

〈大　学〉増田　功（現代社会学部　教授）
桑原　宣彰（現代社会学部　教授）
土井　浩（子ども育成学部　教授）
横井　敏秀（現代社会学部　准教授）
藤野　豊（国際教養学部　准教授）
〈短　大〉桑守　豊美（食物栄養学科　教授）
石塚　盈代（食物栄養学科　教授）
大菅　洋子（食物栄養学科　教授）
水谷　覚（経営情報学科　准教授）
矢口　義教（経営情報学科　講師）
吉田　勉（参事・学生部就職支援センター長）
青木　愛子（図書館司書・係長）
〈高　校〉寺田　允美（教諭）
渡邉　昇（教諭）
山田　博行（教諭）
佐伯　華奈（講師）

◆新任者一覧（平成23年4月1日付）

〈大　学〉PAVLIY Bogdan（現代社会学部　講師）
山田　太郎（総務企画部企画課　主事）
〈短　大〉難波　純子（幼児教育学科　講師）
加納　輝尚（経営情報学科　講師）
寺本　佳苗（経営情報学科　講師）
朴木　訓夫（参事・学生部就職支援センター長）
〈高　校〉松原　澄良（教諭）
橘川　幸治（講師）
中田　悟（講師）
芹田　知佳（講師）
川口真裕子（講師）

学園NEWS

富山国際大学　平成22年度大学機関別認証評価結果について

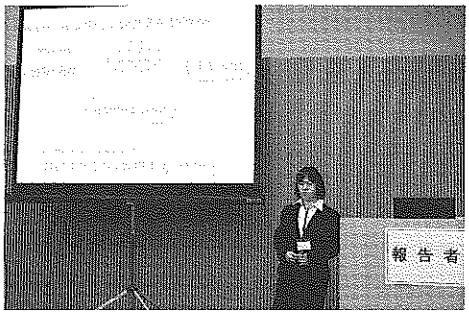
富山国際大学は平成22年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、平成23年3月25日付けで、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を全て「満たしている」と認定されました。認定期間は、平成22年4月1日から平成29年3月31日までの7年間です。

大学評価基準の11項目全てを「満たしている」と評価されたうえ、加えて8つの「優れた点」も公表されました。特に、「基準10. 社会連携」においては、地域社会との協力関係を構築する多くの取組が優れた点として評価されたことは、本学の改革の前進を示すものと受け止めております。

今回の認証評価結果をふまえて、学生及び保護者の方々をはじめとし、地域社会の期待にお応えできるよう、さらなる改革に取り組んでまいります。

なお、評価報告書は、本学ホームページに公開しています。

富山短期大学　経営情報学科学生2名が優秀賞を受賞



日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会主催、学生プレゼンテーションコンテストが、富山国際会議場で1月8日（土）に開催され、中部地区の短期大学生8名が、ビジネス実務教育を受けての実践報告に臨みました。

本学経営情報学科からは2名の学生が、インターンシップでの就業体験をベースに、1名は自身が抱えるハンディキャップを乗り越え、自分に何ができるかという葛藤からの自信の醸成を、またもう1名は事務職が、実は企業活動の支柱であることの発見について発表しました。

2人とも、発表にあたって、時間をかけて真摯に練習に向き合ってきました。発表当日は、いかんなく練習の成果を発表し、それぞれ優秀賞を受賞する素晴らしい結果を残しました。

富山国際大学付属高等学校　学校改革

十数年ぶりで、生徒数の合計が総定員数を上回る状態で春を迎えることが出来ました。しかし、地方の私学が苦戦しているのは、高校も例外ではありません。昨年より導入された、県立高校無償化で、特に地方の私立高校は苦境に陥っています。冬の時代のまっただ中の本校にとって、新校舎の建設は入学者増に直接つながる起爆剤になりました。

入学定員を満たし、また、卒業生から一定数が短大や大学へ進学する状態を維持することができれば、学園に大きく貢献できます。

学校改革の集大成としての6年連続のセルハイ認定、そして新校舎の建設と、中身も外観も新しい付属高校になりました。加えて野球部の富山県大会優勝等、生徒の活躍にもめざましいものがあります。さらなる入学者増につながるよう新たな学校改革に取り組み続けたいと思います。

富山短期大学付属みどり野幼稚園　親子交流会

4月9日（土）、幼稚園にて親子交流会を行いました。

この日は、前日に入園式を終えたばかりの年少さんとその家族を含め、300名ほどが集まり、各クラスでそれぞれの家族の紹介をし合ったり、手遊びなどをして家族ぐるみの交流を行いました。またその後、全員プレイルームに集まり、願海寺・野々上獅子舞保存会の訪問を受け獅子舞を見学しました。

獅子舞の来園は毎年お願いしており、本園の卒園生や保護者の方などが舞方としてたくさん参加しておられ、地域の人たちにも集まっていただきました。当日は、あいにくの雨で、園庭に咲く満開の桜の下での獅子舞とはなりませんでしたが、勇壮な獅子舞を親子で満喫し楽しいひとときを過ごしました。